

タイ便り No.1

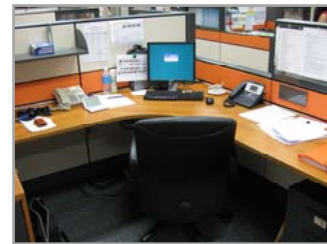
7月末にバンコクの地に降り立ちました。日差しが強く、常に暑いエリトリアで過去1年間を過ごしてきたはずなのに、ここバンコクの暑さに参りそうです。というのもエリトリアの暑さはカラッとした暑さ。ここバンコクの暑さは湿度が伴います。日本人旅行者の方々も、8月の蒸し暑い最中の日本から来たはずなのに、汗が止まらないのか首からタオルを下げて観光をしている姿を見掛けます。



美味しい屋台のご飯

1. 派遣先と業務内容

ここバンコクにある UNFPA の事務所は、タイ事務所でもあり、アジア・大洋州統括事務所でもあります。所員構成人数を見てみると、明らかに統括事務所としての機能が大きいかが判ります。他の国連機関にしても統括事務所としての機能が中心らしく、国連機関が入っている事務所はかなり大きいのです。これまでブータン、ウガンダ、エリトリアと国連機関の建物を見てきました。当時のイメージで事務所へ初出勤したとき、本部でないことは判っていても、本部と見間違ふかと思ったほど大きな建物です。



事務所内の私のブース

現在、UNFPA は本部に集中している決済などを地域統括事務所へ権限を委譲し、地域統括事務所と各国の事務所だけで決済を出来るようにするべく準備をしています。日本の政治システムで言えば、地方分権と同じ事をしようとしております。そのため、本部から何名もの職員がバンコクへ異動してきました。しかし事務所内は既に飽和状態。来年早々には事務所自体の移動も決まっています。

一国の事務所としてだけの仕事ではなく、統括事務所として周辺国の事務所とも関わった仕事にも携わることとなりそうです。

2. どうしてこんなに渋滞している？

日本から飛行機で6～7時間ほどと近く、政情も比較的安定しており、同じアジアであることから馴染み深い国であると思います。私も過去に2回ほど旅行ではありますが、バンコクへ立ち寄ったことがあります。見所たくさん！買い物も存分に！そしてバンコクから2時間ほど飛行機に乗ればリゾートもあり楽しめるところが沢山です。とはいえ、まずは日々の生活、職場への通勤はどうにかしなければなりません。旅行で来たときにも感



夕方を中心部

じていましたが、とにかく渋滞が激しい街です。

借りたアパートから職場からまでは、距離にして 5km 程しかありません。自転車で行けば、のんびり漕いでも 20 分ほど。しかし、ここは渋滞の激しいバンコク。道路の隅っこをチョロチョロ走っていても、交通量が多いので危険というか不安を感じます。もっぱら通勤手段は電車で一駅移動、そこからバスというルートです。当然ながらバスを使うので渋滞に巻き込まれます。電車で一駅遠くまで移動しているとはいえ、自転車で 20 分の距離の移動に、片道 1 時間を掛けて通勤しています。

ここバンコクの国連事務所就業時間が AM7:00~PM3:45 と、朝早くから就業時間となっています。聞くところによると、バンコク市民が通勤する時間を避けるために朝早い時間帯に就業時間がシフトしているとのことですが、それでも激しい渋滞にはまってしまう。これが一般的な時間で出勤していたら、日本以上に通勤にエネルギーを割っていたかもしれません。

大阪駅前以前見掛けた待ち時間表示している信号機。ここバンコクでは車の信号機にも着いています。待ち時間 5 秒を切った辺りから、我先に！と言わんばかりにズルズルとオートバイは前へと出て行きます。それにしても 3 桁もある待ち時間表示。長すぎるような気がします。日本のようにいくつかの青信号を続けて通過することが希なバンコク。これでは平均速度は落ちますから、渋滞が起きて当然かもしれません。



待ち時間は 3 桁！

3. ご飯・・・足りませんか？

バンコクで食べるタイ料理はとっても美味しいです！しかも安い！毎日のお昼ご飯が楽しみになります。なんとなく・・・いえ、確実に赴任をしてから 1 ヶ月経ちましたが太っているのを感じます。しかし問題が一つ。“量が少ないんです！” お米中心にご飯を食べる私は、未だに三膳はご飯を食べそうな勢いでよく食べます。しかし、ここバンコクの屋台で出てくる量は、可愛らしくよそってあり、一皿食べてもお腹を満腹にしてくれません。



そこで赴任してすぐの頃は、同僚と一緒に昼ご飯へ行っても、独りもう一皿食べたりしていました。お腹は満腹！それでも安い。あ～あ、満足！でも一つ問題がありました。汗が止まらないのです。普通にご飯を食べても食べたものが体内で消化され始めるので体温が上昇して汗をかきます。食べる量が多ければ当然消化する量も増えますから、汗を沢山かくことになります。汗を沢山かけば体力を消耗する。日々、バンコクでの生活にな

れていないからか？とっても疲れる毎日でした。

一食の量が少ない代わりに、タイ人スタッフは男女問わずに間食をよくします。勝手な想像ですが“もしかして、体温の上昇を抑えて、汗のかく量を抑えている？”と想像し、それからは一食に食べる量を同僚達と同程度にしました。汗をかく量は確実に減り、一日の仕事が終わってからの疲れも、何となく軽減された気がします。一食の量が少ないのは私の想像通りかは判りませんが、その土地の人達が長年掛けて気付いて効いた生活習慣には意味があるはず。郷には入れば郷に従え。

国連人口基金アジア・大洋州統括事務所
情報ネットワークオフィサー
瀬畑陽介